

聖学院大学人間福祉学部 実務経験のある教員による授業科目一覧

児童学科 : 20単位
 こども心理学科 : 23単位
 人間福祉学科 : 30単位

履修可能学科

No	科目名称	履修学年	単位数	教員氏名	実務経験	授業形態	授業内容または授業概要	児童学科	こども心理学科	人間福祉学科
1	社会	1	2	川瀬 敏行	埼玉県小学校教員	講義	小学校社会科の目標や学習内容を中心に学び、小学校教員免許取得で求められる基本的なことについての理解を目標とする。小学校社会科の目標や各学年の学習内容・指導事例研究を中心に取り上げる。そのほか、学習指導要領と社会科、社会科教育の歩み、小・中学校社会科の関連、社会科指導の基礎と課題等についても研究する。	○		
2	算数	1	2	齋藤 範雄	埼玉県中学校/小学校教員	講義	算数指導のねらいを理解するとともに、基礎的・基本的な知識と技能を習得し実際の指導に活かせるようにする。小学校学習指導要領に準拠した内容を、子どもの概念形成を踏まえて理解できるようにする。教材研究を通して、よりよい授業のあり方を研究し、学校現場に立ったときに自信を持って実践できるように自らの力量を高める。	○		
3	理科	1	2	丸山 綱男	埼玉県小学校教員	講義	本授業では、2020年度から実施される新学習指導要領の改訂のポイントとなる資質・能力の3つの柱に焦点を当てる。3つの柱（①何を知っているか、何ができるか【知識及び技能】②知っていること・できることをどう使うか【思考力・判断力・表現力等】③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか【学びに向かう力・人間性等】）を育む小学校理科教育の目標、内容についての基本的な理解を図る。これまで、学習指導要領各学年の目標に記載されていた「問題解決の能力」が各学年の内容に記載されたことから、受講生が指導者として、内容と問題解決の能力をより意識して、児童の理科に対する、見方・考え方を働かせる力を育て、興味・関心や問題解決の能力を高めていく。また、観察・実験の技能の習得と向上を図るため、各学年の「物質とエネルギー」「生命・地球」の単元の中から特に、技能を身に付ける必要のある内容を体験する。さらに、実験器具の基本操作の習得、安全な理科指導を身に付け、事故防止を図る。理科において、基礎的・基本的な知識・技能は、実生活における活用や論理的な思考力の基盤として重要な意味を持つ。本授業では、受講生自身が自然に親しみ、目的意識を持った観察・実験を行う。その際に、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図ることができるような活動を重視する。また、これまで培った、一人一人の理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことを通して、問題解決の力を身に付けながら、将来指導者になった時に、応用することができるようにする。理科のA,B区分の特徴を把握し、理科に対する興味・関心、学習意欲を高め、その魅力を指導者として児童に提示していくことができるような、学ぶことの意義や有用性を実現できるようにする。さらに、理科として現代社会における環境問題にも触れ、理科を通して、人間活動と身の回りの環境に対する科学的な認識を形成させること、人間活動を含めた自然事象に対する豊かな感受性を養わせること等、理科指導の充実を図る。	○		
4	生活	1	2	市村 和子	埼玉県小学校教員	講義	生活科の目標や学習内容をテーマとして学び、指導のねらいを理解するとともに、生活科設立(1989年)の経緯とその背景、趣旨について正しく理解することを目指す。また、生活科の授業を展開するに当たっての教師の役割、子どもの思いや願いをテーマに学び、子どもの思いや願いを予測することの大切さに気付く感性を養うことも目標とする。小学校学習指導要領をもとに、生活科新設の経緯や趣旨、生活科の目標及び内容構成等についての概要を学ぶ。また、授業の構想の仕方や教材の開発等について、具体的な活動や体験、実践事例等をおして学ぶ。さらに「幼児期の教育」との連携やスタートカリキュラムの重要性についても考察する。	○		
5	保育内容総論	1	2	相川 徳孝	幼稚園教諭	演習	幼児期の特性を踏まえた教育とはどのようなものかを理解し、遊びを通した総合的な学びの在り方と主体的な遊びを展開するための環境を構成する力を身に付ける。また保育を展開するための指導計画の作成方法と具体的な指導の在り方について学ぶ。子どもの姿や保育の評価、情報共有および記録、保育分析・保育改善に情報機器を活用した映像資料が有益であることを理解し、互いに撮影して活用する手法を学ぶ。幼児教育がどのような考えのもとで展開されているのかを理論と具体的な保育の場面から学び、各自が実践してみることを通して身に付けていく。保育とは何か、また遊びを通して幼児の育ちを理解するために映像資料を活用するとともに、情報モラルを踏まえて模擬保育を映像で記録し振り返り等に生かす。	○		
6	幼稚園教育実習	4	5	相川 徳孝	幼稚園教諭	実習	これまでに培った保育の理論・技能の全てを発揮し、幼稚園教諭となるために必要な実践力を修得することを目指す。実習を通して幼児に対する理解を深め、また保育者としての使命感を高める。建学の精神に則り、多様な保育の一類型としてキリスト教保育への造詣も深める。事前学習を経て、幼稚園で4週間の実習を行い、事後学習を通して自己課題に目を向け自己覚知を行う。幼稚園では、大学を離れた幼児教育の現場において実習担当者から実践的な指導を受けながら実習を行い、クラス運営や行事に参加することで幼稚園における教師の職務や活動を実践的に学び、さらには自ら立案した保育指導計画に基づく責任実習を実施する。	○		
7	小学校教育実習	3	5	川瀬 敏行 齋藤 範雄	埼玉県小学校教員 埼玉県中学校/小学校教員	実習	小学校の教育実習は、小学校の教員を志望する学生が、大学の教職課程で習得した知識・技能を基礎として、小学校において教師に求められる職務の一端を実地に学ぶところに意義がある。実際に小学校において、児童の発達段階に応じたコミュニケーションの取り方などの生徒指導、教科等の授業観察や授業実践、教室掲示や学級事務などの学級経営等の力をつけることを目標としている。小学校教育実習は、実際の小学校の学校現場で授業をし、児童理解につとめ、様々な人間関係を学ぶ場である。そのため、事前指導をし、実習終了後に事後指導を行う。 *教育実習(実習校で4週間)	○		

聖学院大学人間福祉学部 実務経験のある教員による授業科目一覧

児童学科 : 20単位
 こども心理学科 : 23単位
 人間福祉学科 : 30単位

履修可能学科

No	科目名称	履修学年	単位数	教員氏名	実務経験	授業形態	授業内容または授業概要	児童学科	こども心理学科	人間福祉学科
8	児童心理学	2	2	村上 純子	病院精神神経科カウンセラー他	講義	児童期の発達段階においてどのような課題が存在するか、また、その課題の達成のために、児童がどのような能力や資源を有しているか学ぶ。こどもは、家庭・学校・職場などの集団の中で生きていく存在である。多様な社会文化的環境において、こども、特に児童は経験を積み重ね、独自の生き方を模索する。心身の成熟とともに個人差をもたらす、認知的・情動的・社会的な要因について学ぶ。※「認定心理士」資格では、「選択科目f」（教育心理学・発達心理学）に区分される科目である。	○		
9	教育測定・評価法	3	2	大橋 良枝	サイコセラピスト、埼玉県非常勤特別講師	講義	心理統計学の基礎となる測定学の理解に加え、測定法を身に付け実行できるようになることを目指す。また、教育における評価の活用方法と禁忌について理解することを目指す。前半の講義の中で、身近な現象を題材として、測定学の基礎を押さえた上で、現場における心理測定と評価の位置づけを学ぶ。その後、実際にそれぞれの関心に基づいて、測定と評価の実習を行い、その習熟度から授業評価がなされる。	○		
10	小児保健学	1	2	中村 月子	東京都養護教諭	講義	1. 子どもの身体的機能・構造を理解する。2. 学校感染症の特徴と支援について説明できる。3. 子どもの主なアレルギー疾患の特徴と支援について説明できる。4. 子どもの主な慢性疾患の病態と支援について説明できる。5. 子どもの眼疾患、耳鼻咽喉疾患の病態と支援について説明できる。以上により、子ども期の健康の維持・増進に働きかけるための実践的な知識・技能を身につける。本講義は、学童・思春期の子どもたちの健康問題に重点を置き、特徴的な感染症や慢性疾患を取り上げ、それらの病態生理や子どもの心理、支援について概説する。これらの学習を通じて、体調不良を訴えてくる子どもの支援や慢性疾患、障がいを持って学校に通学している子どもの支援について実践できる知識・能力を養う。	○		
11	学校保健概論（安全を含む。）	2	2	中村 月子	東京都養護教諭	講義	1. 学校保健の意義、制度、領域について説明できる。2. 学校保健の関係法規について理解できる。3. 学校保健にかかわる組織、関係機関、関係職員の役割を理解し説明できる。4. 学校保健の構造と関わる組織について考えることができる。5. 学校保健活動推進の方法を理解し、必要なプレゼンテーション能力を身につける。以上により、子ども期の心身の健康に携わる者として学校保健について理解し、さらに今日的課題について考察し、保健管理、健康教育につなげた実践が展開できるようにするための基礎力を身に付ける。本講義は、学校保健の目的・意義、関係法規等を概説した上で、学校保健計画、学校環境衛生、救急処置活動等の学校保健全般に関わることを理解できるように構成されている。さらに、子ども期における発育発達と健康課題、それらを踏まえた保健管理、健康教育について学習し、実態に応じた学校保健活動が展開できるように必要な知識や技術を学べるように構成されている。	○		
12	救急処置法（実習を含む）	2	2	中村 月子	東京都養護教諭	講義	本講義と実習では、学校における児童生徒の傷病知識、救急処置や対応技術を教授する。心肺蘇生法、AEDを用いた除細動の技術も習得することを目指す。1. 保健科教諭として医療的、教育的、心理的側面から救急処置過程を理解し、的確な判断と処置ができる。2. 学校救急処置活動の基本的な知識と技術を習得する。3. 包帯法や固定法の技術を体得する。4. 心肺蘇生法、AED除細動器の取り扱いを体得する。5. 校種別の傷病の特徴を知り、対応できる。6. 学校救急処置過程に準じて児童生徒の対応ができる。以上により、子ども期の健康の維持・増進に働きかける保健科教諭の実践的な技能を身につける。	○		
13	知的障害児指導法	2	2	齋藤 一雄	国立大学附属養護学校教諭、同学校副校長（教頭）	講義	1) 知的障害教育の教育課程の編成について基本的なことを理解する。2) 特別支援学校や特別支援学級の具体的な教育課程編成と指導計画の作成について理解する。3) 知的障害児を中心に肢体不自由児や病弱児の指導方法について理解する。4) 指導案の作成や指導方法を学び、授業の評価の基本を理解する。本授業では、知的障害特別支援学校や知的障害特別支援学級の教育課程編成について理解するとともに、各学部や各指導の形態ごとの指導計画を学ぶことができるように構成している。さらに、具体的な指導案の作成や指導方法についての知識や技能を深めるとともに、事例をととして個別の指導計画の作成と活用について理解を深めるように構成している。これらをととして、特別支援学校教諭としての実践的指導力の育成を目指す。	○		
14	特別支援教育実習	4	3	齋藤 一雄 野村 春文	国立大学附属養護学校教諭、同学校副校長（教頭） 埼玉県特別支援学校	実習	1) 特別支援教育の意義と目的を理解するとともに、その内容を知識として身につけることができる。2) 実習を通して、特別支援教育における指導の方法を身につけることができる。3) 児童生徒や教員との関わりを通して、特別支援教諭としての社会コミュニケーション力を身につける。4) 実習の振り返りを通して、自らの取り組みを反省する力を養う。これらの過程を通して、特別支援教諭に求められる知識、技能ならびに態度の育成を目指すこととする。特別支援教育実習は、本実習ならびに事前事後指導からなる。まず事前指導では、特別支援教育の意義やその内容について、講義形式の授業や実習校の実習担当教諭との懇談を通して学ぶ。本実習では、主に授業参観、指導案作成、授業担当（研究授業を含む）、放課後の教材研究指導、学級経営への参加、学校行事や部活動への参加を行う。本実習終了後の事後指導は主に実習生が作成した実習記録をもとに自己評価と反省を行うとともに、教員としての前提となる心構えを学ぶ。	○		
15	青年心理学	2	2	藤掛 明	法務省少年鑑別所、少年院、刑務所	講義	時代とともに変化し、多様化してきている青年期の心理的課題について概要を知ることができる。また、青年期にある自分自身について深く知ることができる。（1）青年期に起こりがちな心理的問題や、関連した社会病理現象をとりあげ、その理解や援助・解決の道筋を考える。（2）同時に青年期にある自分自身を洞察し、実際のアセスメント技法を体験しながら、体感的に学ぶことを心がける。※「認定心理士」資格では、「選択科目f」（教育心理学・発達心理学）に区分される科目である。	○	○	

聖学院大学人間福祉学部 実務経験のある教員による授業科目一覧

児童学科 : 20単位
こども心理学科 : 23単位
人間福祉学科 : 30単位

履修可能学科

No	科目名称	履修学年	単位数	教員氏名	実務経験	授業形態	授業内容または授業概要	児童学科	こども心理学科	人間福祉学科
16	非行の心理	3	2	藤掛 明	法務省少年鑑別所、少年院、刑務所	講義	非行の心理について、臨床心理学の観点から、理解する。心理アセスメントや心理カウンセリングの実際についても、一般の心理臨床との違いを明確にする。また、非行に限らず、行動化を伴う心理臨床（依存症など）についてもあわせて取り上げる。非行や犯罪の事例やそれを取り上げた文学作品などを適宜紹介し、受講者が主体的に参加し、考えることが出来るようにする。	○		○
17	心理療法論	3	2	藤掛 明	法務省少年鑑別所、少年院、刑務所	講義	心理療法の目的、対象、およびそれぞれの心理療法の効果と限界について理解することを目標とする。心理療法の前提となる「臨床的知」を理解し、そのうえで、代表的な心理療法の方法と効果・限界について学ぶ。さらには、心理学的支援の基礎となる良好な人間関係を築くためのコミュニケーション方法や、心理療法を進める上での実際の問題、倫理的問題（プライバシーへの配慮）についても学ぶ。また、訪問による支援や地域支援、さらには心理的支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育等幅広く学んでいく。	○		○
18	福祉心理学	3	2	堀 恭子	神奈川県立学校（中・高）スクールカウンセラー・同教育相談員	講義	対人援助については、専門職としてどのようにあるべきかについて教育がなされるが、「なすべきことができなかったときにどうするか」について学ぶ機会は少ない。福祉心理学では福祉を対人援助と読み解いて、援助者・被援助者双方を心理学的側面から理解すると同時に、対人援助場面をコミュニティ心理学の視点を持ってシステムティックに捉える練習の場とし、現実の援助場面について考える機会とする。前半の心理学的基礎学習を踏まえて、授業の後半では様々な福祉現場で生じている問題や的確なアセスメント、関連する社会福祉の歴史や動向、制度や法律、理念などについても学ぶ講義の前半では、参考文献に沿って主に援助者に起こっていることについて学び、後半では福祉現場において、援助者・被援助者・援助場面に起こりうることにについて具体例を紹介し、各事例の心理社会的課題や支援について解説し、受講者と共に対人援助について考えていきたい。また、話題に上ることの多い虐待・DV、高齢者支援、貧困がもたらす心理状態と課題、障害とソーシャル・インクルージョン、セルフヘルプグループなどについては、心理的側面から詳細に述べていきたい。ほぼ毎回受講者間でのグループディスカッションを通して 学びを深めていく予定である。	○		○
19	現代社会と福祉	1	4	中谷 茂一	埼玉県子ども権利擁護委員会調査専門員（非常勤相談員）	講義	・現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。・福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。・福祉政策におけるニーズと資源について理解する。・福祉政策の課題について理解する。・福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。・福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。・相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。・現代社会における福祉制度と福祉政策・福祉の思想と哲学・福祉制度の発達過程・福祉政策におけるニーズと資源・福祉政策の課題・福祉政策の構成要素・福祉政策の関連領域・福祉政策の国際比較・相談援助活動と福祉政策の関係			○
20	精神保健福祉に関する制度とサービス	2	4	相川 章子	病院ディケアスタッフ、保健所ディケアグループワーカー等	講義	① 精神障害者の相談援助活動と法（精神保健福祉法）との関わりについて理解する。② 精神障害者の支援に関連する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について理解する。③ 精神障害者の支援において係わる施設、団体、関連機関等について理解する。④ 更生保護制度と医療観察法について理解する。⑤ 社会資源の調整・開発に係わる社会調査の概要と活用について基礎的な知識を理解する。① 精神保健福祉法の意義と内容② 精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス③ 精神障害者に関連する社会保障制度の概要④ 相談援助に係わる組織、団体、関係機関及び専門職や地域住民との協働⑤ 更生保護制度の概要と精神障害者福祉との関係⑥ 更生保護制度における関係機関や団体との連携⑦ 医療観察法の概要⑧ 医療観察法における精神保健福祉士の専門性と役割⑨ 社会資源の調整・開発に係わる社会調査の意義、目的、倫理、方法及び活用			○
21	精神障害者の生活支援システム	2	2	田村 綾子	病院医療福祉支援室、企業健康管理センター	講義	① 精神障害者の生活支援の意義と特徴について理解する。② 精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。③ 職業リハビリテーションの概念及び精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動（その他の日中活動支援を含む。）について理解する。④ 行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について理解する。① 精神障害者の概念② 精神障害者の生活の実際③ 精神障害者の生活と人権④ 精神障害者の居住支援⑤ 精神障害者の就労支援⑥ 精神障害者の生活支援システム⑦ 市町村における相談援助⑧ その他の行政機関における相談援助			○
22	社会福祉援助技術現場実習	3	6	小沼 聖治	精神保健福祉士	実習	①社会福祉実践現場の体験を通して、社会福祉士としての使命と倫理を自覚できる。②社会福祉士として必要な価値・知識・技術を獲得することによって、今後の現場実践で効果的に活用できる。実習指導者の指導のもと、次に掲げる事項について、合計180時間以上に及び実習教育を行う。1つの施設において、集中実習（合計180時間以上）の形態で行う。			○

聖学院大学人間福祉学部 実務経験のある教員による授業科目一覧

児童学科 : 20単位
 こども心理学科 : 23単位
 人間福祉学科 : 30単位

履修可能学科

No	科目名称	履修学年	単位数	教員氏名	実務経験	授業形態	授業内容または授業概要	児童学科	こども心理学科	人間福祉学科
23	精神保健福祉援助実習	4	6	相川 章子 田村 綾子 小沼 聖治	病院デイケアスタッフ、保健所デイケアグループワーカー等 病院医療福祉支援室、企業健康管理センター 精神保健福祉士	実習	① 精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実的に理解し実践的な技術等を体得する。② 精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。③ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。④ 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。① 精神科医療機関における実習は、患者への個別支援を経験するとともに、急性期の相談や地域移行支援、地域生活支援、家族支援、関係職種との連携について体験をもとに考察し実習指導者による指導を受ける。②地域の障害福祉サービス事業を行う施設等や精神科医療機関の実習を通して以下を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。ア 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成、イ 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成、ウ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成、エ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価、オ 精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際、カ 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解、キ 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解、ク 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際、ケ 当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解			○